会議結果報告書

| | |
|---|---|
| 1　会議名 | ごみ処理に関する課題についての意見交換会（堤下自治会） |
| 2　日時 | 平成 31 年 1 月 21 日（日）10：00～11：00 |
| 3　場所 | 堤自治会館 |
| 4　出席者 | （資源循環課）森岡担当主査、永井主任<br>（環境事業センター）和田主事<br>（堤下自治会）参加人数：24 人 |
| 5　内容 | 本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。<br><br>●ごみの有料化は、財源確保のために行うのか、理由が明確でないように思う。また、このような施策は、議論に時間をかけるべきであるが、アリバイ作りのために、このような場が設けられているように感じてしまう。住民に身近な問題であるので、慎重に検討を進めて欲しい。<br>→ごみの減量化・資源化が目的である。来年度の方針決定の前に、意見交換会をさせていただき検討を進めている。今後も、なにかしらの方法で皆様にご説明させていただき、丁寧に検討を進めていきたいと考えている。<br><br>●地域清掃やお祭りなどの催事のごみは有料化の対象になるのか。<br>→先行市では、地域清掃のごみやオムツなどを有料化の対象外としている。本市においても、このことについて検討し、方針決定の際には、有料化の対象をお示したいと考えている。<br><br>●資料によると、大和市の年間のごみの排出量が 4 万 t 程度で、茅ヶ崎市が 7 万トンである理由を教えて欲しい。<br>→大和市は可燃ごみと不燃ごみのデータだが、茅ヶ崎市は事業系ごみや資源物なども加えたデータであるため、人口規模がほぼ同じでも、差が出ている。<br><br>●戸別収集を実施する場合とそうでない場合のコストが資料にないため、判断することができない。また、戸別収集を実施するにあたり、業務の一部を民間に委託する事も考えているか。外部委託は経費を抑えることができるかもしれないが、継続性に疑問が残る。現在働いている職員のこともよく考えたうえで、検討を進めてほしい。<br>→現在の体制で、戸別収集を実施するのは難しいかと考えている。公的関与の必要性を認識しつつ、民間への委託も選択肢として検討していく必要があると考えている。<br><br>●沼津市では、大型スーパーなどにいつでも出せる集積場所が多くある。このような取組みを推進・定着させることにより、戸別収集で収集するごみを少なくすることができると思う。<br>→他市の実例として、参考とさせていただきたい。 |

| | |
|---|---|
| | ●資源物の売却益というのは、毎年いくらほどか。啓発の際などにそれを強調するのはどうか。<br>→貴重なご意見として承る。毎年 1 億 2 千万円から 1 億 5 千万円程度の売却益を得ている。<br><br>●各事業者への啓発・指導はどのようなことを行っているのか。<br>→多量排出事業者上位 50 社に対して、ごみの減量計画書を提出させることで、指導を行っている。また、事業者を対象にしたごみ処理の課題に関する意見交換会も実施している。<br><br>●資料に、最終処分場に使用期限があると記載されているが、どのような意味か。<br>→協定に基づく使用期限を資料に記載させていただいている。その後は、焼却灰の全量資源化など、焼却灰の処理について、十分に検討を行わなければならないと考えている。<br><br>以上 |